特集 郷土芸能

市内には、郷土芸能を守り、受け継いでいこうと活動をしている人々がいます。御厨蛇（じゃ）踊り保存会もその一つ。今月号では、7月16日にアルカス佐世保で行われる「第45回献血運動推進全国大会」で約2千人の観衆の前で演舞する御厨蛇踊り保存会の活動にスポットを当て、その活動の中から郷土芸能を探ります。

御厨蛇踊り

御厨蛇踊り保存会の活動は、御厨宮日の奉納・演舞をはじめ、松浦水軍まつりで演舞するなど、いまや郷土芸能として、御厨町だけでなく松浦市の顔として市内外で活躍しています。

昭和37年8月、初披露となった御厨盆行事（写真提供：御厨蛇踊り保存会）

保存会の発足

昭和25年ごろ、御厨ではお盆になると佐賀県鹿島市の祐徳稲荷神社がご神体のお披露目に出向く「出開帳」が行われていました。この出開帳は3年ほどで途絶えましたが、その後も御厨では、出開帳という盆祭りが行われていました。しかし祭りの主役であったご神体の出開帳がなくなったことで、祭りは年々寂しくなっていき、この盆祭りも昭和33年で終わることになります。

そこで御厨に活気を取り戻そうと御厨駅通地区の若者が集まりました。そこで決まったのが「龍踊り」。しかし祐徳稲荷神社が出開帳をしていた御厨なので長崎の「龍踊り」とは区別したいという思いから、「龍」を「蛇」にし、蛇の大きさも長崎より大きく作りました。昭和36年8月のことでした。

御厨蛇踊りは当時、駅通地区だけで活動をしていましたが、1地区だけでは人員確保が困難となり、御厨小学校区の人を会員とした御厨蛇踊り保存会を発足し、御厨町の蛇踊りとして継承することになりました。

現在のかたちへ

昭和55年には初代「子青蛇」が完成し、それまで囃子にだけ参加していた御厨小学校の児童たちが担ぎ手としても参加するようになりました。また、同保存会のメンバーなどが平戸や長崎に見学に行き、参考にしながら御厨独自の蛇踊りに仕上げられていきました。

大舞台

5月中旬、同保存会会長武辺健一郎さんの元に第45回献血運動推進全国大会実行委員会から1通の手紙が届きました。7月16日に佐世保市のアルカスSASEBOで行われる「第45回献血運動推進全国大会」への出演依頼でした。

「御厨蛇踊り保存会が日蘭交流400周年記念行事に参加するなどの今までの実績が認められ、選ばれたのではないでしょうか」と武辺さん。全国から約2千人が集まるイベントで演舞し、御厨蛇踊りだけでなく松浦市を全国にアピールするチャンスが訪れたのです。

やるからには最高の蛇踊りを披露したい。毎年地元の御厨宮日に向けて9月から始めている練習を、今年は6月から始め、練習にも熱が入っています。